

第2次大戦中にマンザナに強制収容された日系人の幼い兄弟を題材に、日本人留学生の落合賢さん(監督/脚本)が、短編映画『Half Kenneth』を製作する。これは、アメリカ映画協会付属大学院(AFI=American Film Institute)の卒業制作映画だが、AFIの卒業プロジェクトは、過去にアカデミー賞やディレクター・ギルド・

オブ・アメリカ賞を含む数多くの賞を受けた、ノミネートされた実績を持つ。現在、クルー達は5月からの撮影に向けて、ロケ地・キャスト選考の他に、40年代の町並みや施設を正確に再現するための製作資金の支援をお願いするため、各企業や団体めぐりに奔走中だ。そんな中、監督の落合さんにインタビューした。

日系強制収容所の悲劇描く 短編映画『Half Kenneth』 語り手が少なくなってきた今、映像化

短編映画『Half Kenneth』は、父親が日系人で母親が白人の両親を持つ2人の兄弟、ケネス12歳とジョセフ8歳の冒険物語。兄弟は父親と3人でマンザナの収容所で暮らしていたが、ある時、父親が病気で死んでしまう。どうして母親と一緒に来なかったかを知らないケネスは、父親の死をきっかけに母親を探すため収容所脱出を実行するが、その直前に弟のジェセフがくっついてくる。旅の途中、ジェセフは問題を次々起こし、ケネスはその後始末に翻弄されながらも幼い兄弟の母親探し、自分のルーツ探しは続く。これはフィクションだが、史実に触発されて書き下ろされたオリジナル。

今回、落合さんが日系人強制収容所を舞台に映画を撮るきっかけとなったのは、幾年前から日系人の体験談を記録しているプロデューサーの兼原麻弥さんから話を聞いたからだ。

「僕はアメリカに来るまで、日系人の方々が第2次大戦中に強制収容されていたなんて知らなかったんです。2年前に兼原からこの話を聞いて、故郷のない人々がいたことに関心を持ちました。強制収容をきっかけに、自分の文化を捨てる傾向が強まり、また、戦後60年以上が経ち、語り手も少なくなっています。今、このことを映像化して、多くの人に伝えたい。それに、映画界では、ユダヤ人の強制収容についての映画は数え切れないほどありますが、それに比べると、日系人の映画は少ないです」

この映画のテーマは？

「兄弟の絆と家族の大切さ。両親を失って、子供達は大人にならざるを得ない状況になってしまうけど、人間は、どんな困難に立たされても乗り越えようとする。“人”という漢字が示すように兄弟が支えあって生きていく。また、兄

弟が、キャンプの中で居場所がないのは白人だから、キャンプの外では彼らが日本人だから。そんな彼らがどういうふうに分身の居場所を探していくのが、この映画のテーマです」

これまで落合さんは、自分の実体験を元にドラマ化し、映画を通して自分の伝えたいことを表現してきた。この『Half Kenneth』にも、20歳の時の経験が反映されているという。

「成人式で家に帰った時、(ある事情で)家は完璧にリフォームされてて、そこには全く違う家があった。僕と兄の身長を測った柱の傷跡も無くなっていて、全く綺麗な家になってしまった。その時、あれっ、これって僕の家なのかなって感じて、それをきっかけに自分探しというか自分の居場所探しの旅に出ました。そこで気がついたのは、一番大切な居場所というのは自分の中にある。自分の中にある場所を大切にすることによって、自分がどこにいても自分を持って生きていけるんじゃないかって」

自分一人ではできないところが面白い

小学2年生の時、初めて映画館で見た映画が『ジュラシックパーク』。親友と何時間も並んで一番前の席に座り、最初に恐竜が出てくるシーンを見て、「これが映画なんだ!って、その時の感動が未だに忘れない」と、落合さんは目を輝かせて話す。そして、12歳の時、文化祭で、自分が書いた脚本をもとに初めて映画を撮った。

「ずっと映画を作り続けているので、ある意味、映画を作らない方が不自然。もう呼吸みたいな。息を吸う代わりにアイデアを吸って、映画を吐いていくように映画を作っている。映画というのは、音楽、映像、物語の三つを混ぜ合わせて観客に思いを伝える。今や自分を表現する言葉になって僕のコミュニケーションの一つ。

映画の一番おもしろい所は、自分一人ではできないところ。全行程で何百人もが一つになって、初めて観客に思いを伝える。一人一人の意志などが監督やプロデューサーを通して総括されて、大きなうねりとなって観客にいく形が、上手く行かない所が楽しい。人と人とのコミュニケーションが、最終的には、映画を通してコ



監督の落合賢さん
(写真・山本悟史)

ミュニケーションに繋がるとというのが、映画の醍醐味です」

渡米して6年目の落合さん。まだ24歳と若いですが、質問に答える姿勢から、自らの体験を通して学ぼうと真剣に取り組んできたことがうかがえる。そんな落合さんが監督する『Half Kenneth』は完成後、カンヌやベニスなどの世界中の国際映画祭に出品予定で、上映は、ハリウッドのArclight Cinemasで2009年に行われる。

—Tomomi Kanemaru

只今、『Half Kenneth』製作資金の支援を募っている。詳細：兼原麻弥プロデューサーまで。

mkcproductions@gmail.com

(415)786-5467



An AFI Thesis Film Half Kenneth

Gift fo Kimie Nagai, Japanese American National Museum (92.125.12)



現在のマンザナの様子(写真提供=落合賢)

左:『Half Kenneth』の企画書より



写真提供: Library of Congress